

CITY OF YOKOHAMA

# 横浜国際プール再編整備事業



明日をひらく都市

OPEN X PIONEER

2025年3月26日

- 0 敷地と建物の概要
- 1 横浜国際プールの目指す姿とリニューアルビジョン
- 2 これまでの検討経過
- 3 素案についていただいたご意見
- 4 再整備の内容
- 5 事業手法と今後の流れ
- 6 施設の名称
- 7 グループ対話でお伺いしたい事項

## 0 敷地と建物の概要 ～広域地図～

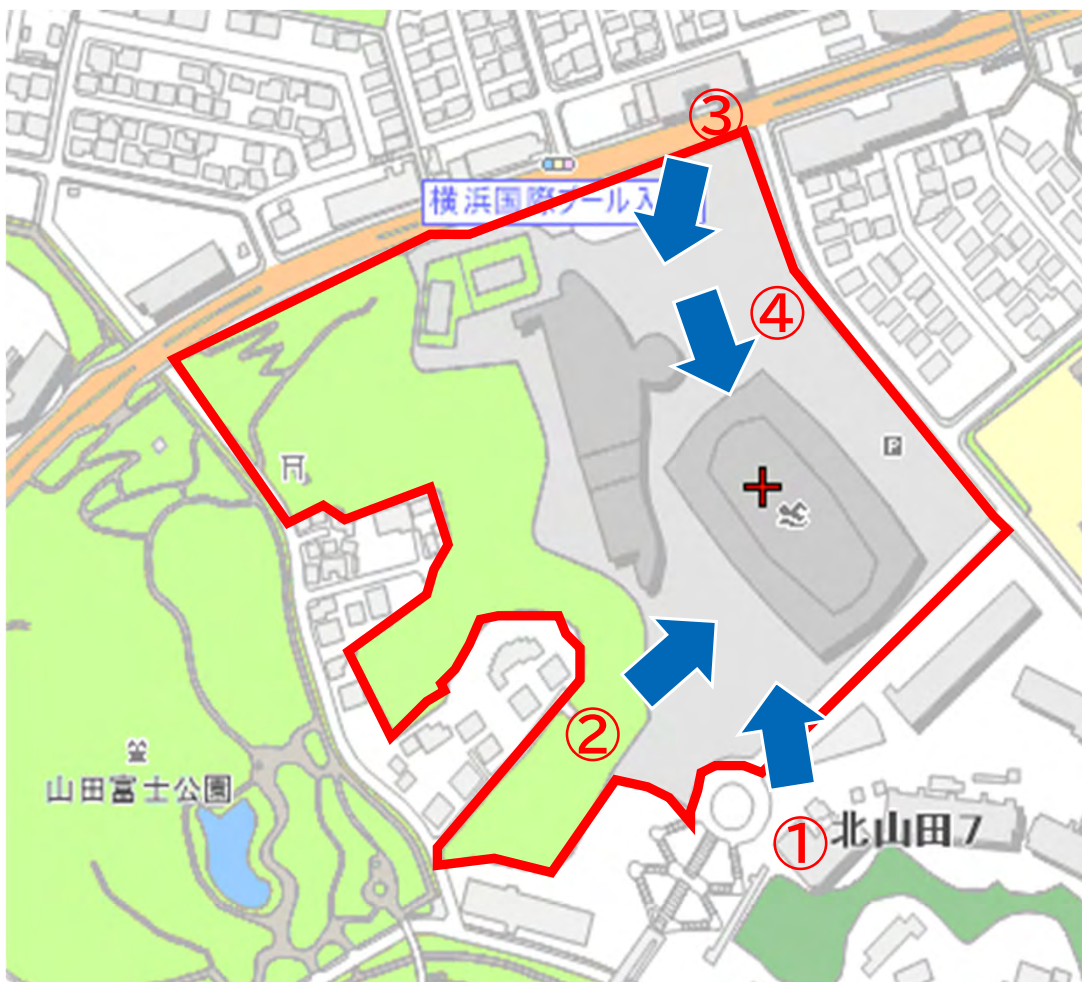


## 0 敷地と建物の概要 ～計画地の状況～

明日をひらく都市

OPEN x PIONEER

YOKOHAMA

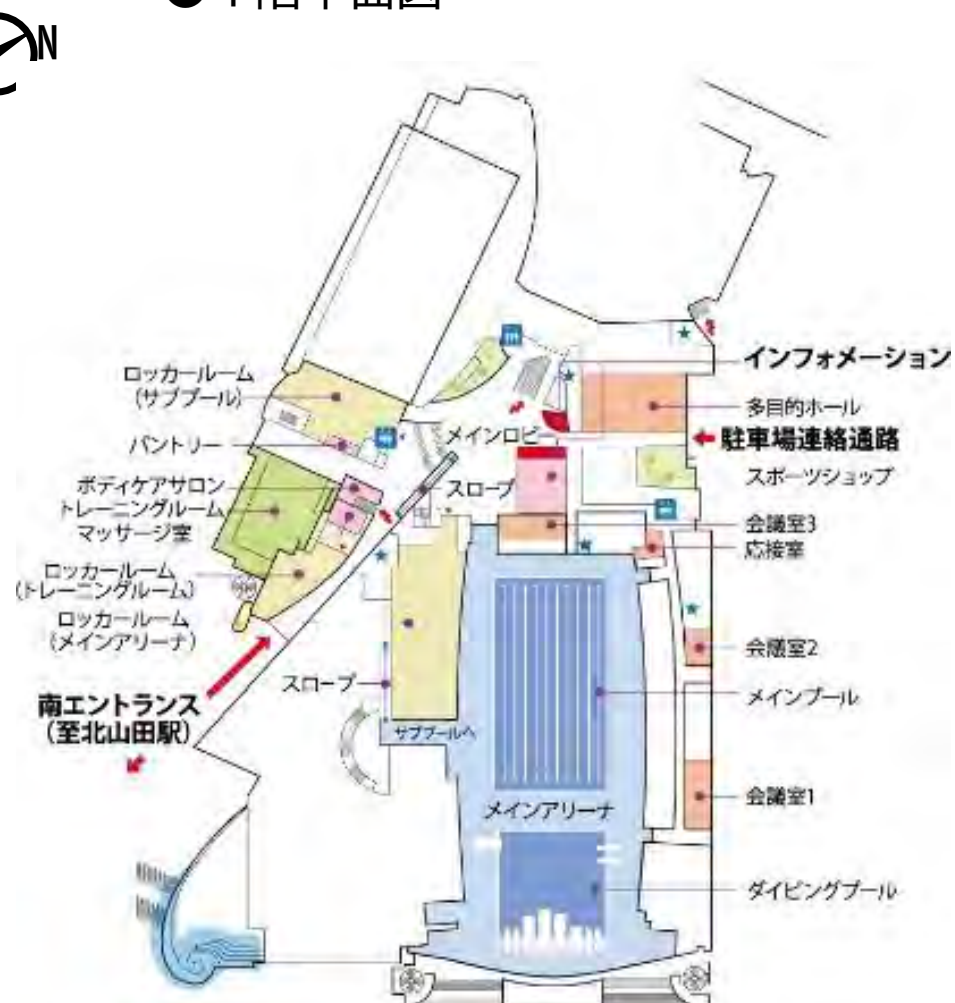


# 0 敷地と建物の概要 ～既存施設の概要～

●配置図



●1階平面図



# 0 敷地と建物の概要 ～既存施設の概要～

● 2階平面図



● 3階平面図



# 0 敷地と建物の概要 ～既存施設の概要～

室場名	規模	備考
メインアリーナ	メインプール(5月上旬～9月下旬) 50m×10コース(国際公認プール) 観客席:約4,000席 ダイビングプール(5月上旬～9月下旬) 25m×25m(国際公認プール) スポーツフロア(10月中旬～4月上旬) 3,330㎡ テニスコート5面、バドミントン20面	【年間利用形態】 4月上旬～下旬: <u>床転換</u> (休業:29日間) 5月上旬～9月下旬: プール 9月下旬～10月中旬: <u>床転換</u> (休業:26日間) 10月中旬～4月上旬: スポーツフロア → <u>営業期間は年間約10か月のみ</u>
サブプール(通年)	50m×コース(一般プール) 観客席:355席	大会利用、団体利用、個人利用、自主事業(教室)
レストラン	133.7㎡	平成28年にレストラン営業は終了
トレーニングルーム	270㎡	有酸素系マシン22台、筋力トレーニングマシン15台等
サブアリーナ	624㎡	バドミントンコート3面
多目的ホール	210㎡	
会議室3室	99.9㎡(48席)、58.3㎡(24席)、75.4㎡(24席)	
多目的コート(屋外)	テニスコート2面	
駐車場	270台	

# 1 横浜国際プールの目指す姿とリニューアルビジョン

明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER  
YOKOHAMA

## ○横浜国際プールの目指す姿

子どもたちが多様なスポーツを体験し 成長する場として  
小さな子どもも一緒に 親子がゆとりの時間を過ごせる場として  
市民の皆様がスポーツを通じた交流を重ね にぎわいが生まれる場として  
そして  
誰もが共に多様なスポーツを楽しめるインクルーシブなスポーツ拠点として  
より開かれた 多くの市民の皆様にご喜ばれる施設へと生まれ変わります

# 1 横浜国際プールの目指す姿とリニューアルビジョン

## ○リニューアルビジョン

### 次世代を育む複合型スポーツアリーナ

～子どもが主役の夢とにぎわいが生まれる場所に～

## ○4つの視点

①親子の遊びと  
ゆとりの居場所づくり

②市内小中高生が集う  
スポーツの拠点

誰もが共に  
多様なスポーツを  
楽しむ場

③スポーツを通じた市民の  
コミュニティスペース

④障害の有無などに関わらず  
誰もがスポーツを楽しむ場

未来への負担を減らした持続可能な施設へ

## 2 これまでの検討経過

### (1) 検討の背景

平成10年7月の開館から25年以上が経過し、施設の老朽化によりプール設備や空調設備等の大規模な設備更新が必要なタイミングを迎えているほか、利用者の安全性確保のためメインアリーナの特定天井脱落対策工事の実施が必要です。

また、令和3年度の包括外部監査では、メインアリーナを夏季はプール、冬季はスポーツフロアとして使用する運営方法（床転換）について、転換作業にかかる費用（年間約5,100万円※令和2年度実績）やこれに伴う休館期間に対する経済性の観点からの課題が示されました。

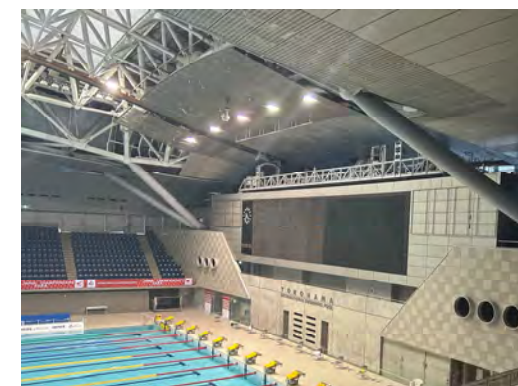
開館から現在までの間には、価値観の多様化や技術革新が進み、ライフスタイルの変化に応じたスポーツの機会の確保や、映像や音声を活用した多様なスポーツ観戦手段等、社会ニーズの変化への対応が求められています。

併せて、資産経営にあたっては、令和4年度に策定した「横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン」に基づき、公共施設が提供する機能・サービスを持続的に維持・向上させるため、保全・運営の適正化、規模の効率化、財源創出の3つの原則により公共施設マネジメントを推進していく必要があります。

大規模な設備更新にあたっては、本施設が持つポテンシャルを活かしながら、より多くの市民の新たなニーズに対応する魅力的な施設へと転換を図る必要があります。



床転換工事の様子



メインアリーナの特定天井

## 2 これまでの検討経過

### (2) 老朽化や機能面の具体的な課題

#### ・大型ビジョンの老朽化

電灯が切れていて点灯しない箇所がある（生産終了のため交換不可）など、大会運営に支障が出ています。

#### ・入退場ゲートの老朽化

経年劣化が進み、部品供給も終了しており、今後故障した場合の修繕ができない可能性があります。故障した場合、入退場の管理を人力で行う必要があり、延長料金の徴収も困難になるなど施設運営に大きな負担が生じます。

#### ・メインプール床の老朽化

竣工時に整備された押出成形コンクリート板（ALC板）はプール時とフロア時の湿潤と乾燥の繰り返しにより劣化が進み、割れやヒビが生じています。令和3年度からは、部品供給が終了したため、繊維強化プラスチック板（FRP板）への交換を行っていますが、高額な交換費用が課題となっています。

#### ・その他耐用年数を大幅に超えているもの

メインアリーナ・サブプールの空調設備、ろ過機、熱源設備等



大型ビジョンの球切れの状況



メインプール床のひび割れの状況

# 3 素案についていただいたご意見

明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER  
YOKOHAMA

## (1) 横浜国際プール再整備事業計画(素案) 令和6年6月公表

横浜国際プール再整備事業計画（素案）は  
こちら ⇒横浜市ホームページ：  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/shinko/saiseibi/pool/ikenbo-shu.html>

### 4 地域の魅力向上に向けた取組

(1) まちの魅力向上  
スポーツアリーナは、単なるスポーツ施設に留まらず、感動体験の共有や恒久的なにぎわいの創出を通じて、地域のシンボルとなり、それを核にして新たな産業が輩出するとともに、スポーツの波及効果を活かしたまちづくりが可能となるなど、地域経済活性化や持続的成長といった新たな公益をもたらすことが期待できると考えられています。  
周辺施設との連携等、本施設が地域と一体となり、まちの魅力の向上に寄与するための取組を検討していきます。  
※本施設「アリーナ・プール棟」・「観客席（観客席ビルディング）」スポーツ棟、観客席棟

(2) 北山田駅からのアクセス改善  
開行時はもとより、日常的なアクセス改善についても検討していきます。

(3) ジョギングや自転車利用環境の整備  
本施設を起点に、エリア全体でスポーツに親しみ、市民の健康増進、まちの活性化につながる取組を検討していきます。



### 5 現状と「過年スポーツフロア化」を行った場合の運営費等の試算の比較

過年スポーツフロア化する場合の運営費等は、床面積を維持する場合の運営費よりも約20%程度多くかかりますが、過年スポーツフロア化により年間2億円以上のランニングコスト（市が負担）の削減（耐用年数までの換り約40年間で約80億円）が可能となることから、トータルコストは大幅に削減することができると見込んでいます。

項目	現状（仮定）	過年スポーツフロア化（仮定）	差
運営費	約6.5億円/年	約8.5億円/年	▲2.0億円/年
設備更新費	約1.5億円/年	約0.5億円/年	▲1.0億円/年
光熱水費	約3.0億円/年	約2.0億円/年	▲1.0億円/年
計	約11.0億円/年	約10.0億円/年	▲1.0億円/年
初期投資金	約4.0億円/年	約6.0億円/年	▲2.0億円/年
総投資金	約15.0億円/年	約16.0億円/年	▲1.0億円/年

### 6 事業スケジュール（予定）

事業手法をPFI方式とした場合、現時点では以下のスケジュールを想定しています。ご意見を踏まえ引き続き精査していきます。

- 令和6年度：再整備事業計画策定・公表
- 令和6～10年度：免状準備、設計、工事

### 横浜国際プール再整備事業計画（素案）について 皆様のご意見をお聞かせください。

募集期間  
令和6年6月24日（月）から7月31日（水）まで

応募方法  
次の方法で、ご意見をお寄せください。

①インターネット入力フォーム【推奨】  
▶スマートフォンで閲覧される方は  
右の二次元バーコードからアクセスできます。  
▶パソコンで閲覧される方は、下記検索ワードからアクセスしてください。

②はがき（左のはがきを切り取り、ご使用ください）  
【切手不要 当日消印有効】  
③FAX 045-664-0669  
④電子メール [ne-ikenbo@city.yokohama.jp](mailto:ne-ikenbo@city.yokohama.jp)

※募集の全体図は<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/shinko/saiseibi/pool/ikenbo-shu.html>でご覧いただけます。  
※FAXや電子メールの場合には、「横浜国際プール再整備事業計画（素案）」へのご意見である旨を明記してください。

お問合せ  
横浜市 にぎわいスポーツ文化局 スポーツ振興課 意見募集担当  
〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10  
TEL 045-664-0669

このハガキは  
使用できません。

### 横浜国際プール再整備事業計画（素案）概要版

#### スポーツを通じた次世代を育む拠点 ～子どもが主役の夢とにぎわいが生まれる場所に～

横浜国際プールは、市民の健康増進や体力づくりはもとより、国際親善の大会をはじめ各種大会の開催や選手・指導員養成など市民スポーツから各種競技大会の開催・観戦の場として幅広く活用できる総合的な屋内水泳競技場として整備され、平成10年に竣工しました。



●施設名称	横浜国際プール
●住所	横浜市中区北山田7丁目3番地1号
●アクセス	北山田駅から徒歩5分
●開業年	平成10（1998）年
●延床面積	35,876.94㎡
●構造・階数	SRC造、地上3階 地下2階
●主な用途	メインアリーナ（夏季プール/冬季スポーツフロア）、サブアリーナ、トレーニングルーム等
●観客席数	メインアリーナ：約5,000席（可動席含む） サブアリーナ：約350席
●運営形態	指定管理

○検討の背景  
平成10年7月の開館から25年以上が経過し、施設の老朽化によりプール設備や空調設備等の大規模な設備更新が必要なタイミングを迎えているほか、利用者の安全性確保のためメインアリーナの特定天井脱落対策工事の実施が必要となっています。  
また、令和3年度の包括外部監査では、メインアリーナを夏季はプール、冬季はスポーツフロアとして使用する運営方法（床転換）について、転換作業にかかる費用（年間約5,100万円）やこれに伴う利用休止期間（年間約2か月）に対し、経済性の点からの課題が示されました。  
大規模な設備更新にあたっては、開館から現在までの間に蓄積された多様な経験や技術革新が進み、ライフスタイルの変化に応じたスポーツの機会の確保や、映像や音声を活用した多様なスポーツ鑑賞手段等、社会ニーズの変化への対応が求められています。

○再整備事業の目的  
再整備事業は、老朽化が進んでいる横浜国際プールを、単に施設の長寿命化を図るのではなく、この機会を好機として、再整備を実施することにより、さらなる市民サービスの向上及び持続可能な施設運営を目指すのちろんこと、本施設をエリア全体に寄与する施設にしていけることを目的とします。  
本事業を実施するにあたり、現状の課題、今後の果たすべき役割、事業の方向性について整理し、本事業の基礎資料とするため、「横浜国際プール再整備事業計画（素案）」を策定します。

明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER

令和6年6月発行 横浜市内にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課  
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 電話：045-671-3583 FAX:045-664-0669

### 3 素案についていただいたご意見

## (2) 市民意見募集

### 【実施概要】

- 意見募集期間 : 令和6年6月24日(月)～7月31日(水)
- 応募方法 : インターネット入力フォーム(電子申請システム)、「横浜国際プール再整備事業計画(素案)概要版」に添付のはがき、FAX、電子メール
- 資料の配架場所 : 市民情報センター、市内18区役所区政推進課広報相談係、各市立図書館、各区スポーツセンター、横浜国際プール

### 【意見数】

インターネット 入力フォーム	はがき (郵送)	FAX	電子メール	合計	
2,344通	842通	3通	19通	3,208通	7,434件

### 3 素案についていただいたご意見

#### (2) 市民意見募集

自由意見欄	いただいたご意見
メインアリーナ へのご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通年スポーツフロア案に賛成です。<u>コスト削減</u>でき、今より<u>幅広い用途</u>での利用も期待できます。</li> <li>・サブプールがあれば、メインプールは必要ない。メインプールは利用している人は少ないし、維持する費用がもったいない。</li> <li>・国内で見てもまだ貴重な50mプールであり、大きな大会の会場としても利用される重要な施設だと感じている。</li> </ul>
サブプールへ のご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サブプールのテコ入れはしっかりやる必要がある。特にアップ用のプールをどう設えるか、検討のしどころ。しっかり考えてほしい。</li> <li>・観客席を増やし、プールとして存続を希望。<u>ある程度の大会を開催出来るように</u>すれば良いと思う。市民への解放も含め、プールとして水泳の発展を。</li> <li>・残るサブプールは、可能な大会をしっかりと実施できるよう、<u>可能な限りの機能向上</u>を図らなければならないと思います。アッププール、観客席、空調、ビジョン、バリアフリーなど、きめ細かく配慮する必要があると思います。</li> </ul>

### 3 素案についていただいたご意見

#### (2) 市民意見募集

自由意見欄	いただいたご意見
マンガライブラリー・屋外遊具等に対するご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用用途が広がるのはいいと思う。<u>地域のコミュニティの場</u>として利用したい。</li> <li>・様々な人が集まる場所になることは地域にとっても大歓迎です。いろんな交流が生まれるチャンスになりそうです。</li> </ul>
その他再整備に対するご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>貴重な竹林</u>を有し自然環境に恵まれた素晴らしい立地を有効に活用した、改築となるよう願っている。<u>北山田駅からのアクセス</u>についても更に検討してほしい。高齢者にとっては改築にかかる時間も惜しいが、国際プールが生まれ変わる日を心待ちにしている！</li> <li>・北山田駅からのアクセスが階段を登る他ないのでそれを改善できたらと思う。 (健康な人は問題ないが、車椅子の人はアクセスが難しい)</li> </ul>

## 3 素案についていただいたご意見

### (3) 地域の皆様との意見交換

令和6年6月～7月にかけて、都筑区連合町内会自治会の地区連合町内会自治会会長の皆様や、本施設が位置する連合町内会自治会、自治会町内会、地域の商業振興会に素案の内容についてご説明し、意見交換を行いました。

項目	主なご意見
施設改修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ早急に進めて早く工事が終わるようにしてほしい。</li> <li>・障害者の方や子育て世帯にとってもサブプールを使いやすくしてほしい。</li> </ul>
施設の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜国際プールを皆が楽しめる場所にしてほしい。今は、施設内を利用する人が多いが、利用者が限られている。</li> <li>・基本的に賛成の考えである。若い世代が使う施設になることがいい。</li> <li>・屋外のスペースを活用して、外でも遊べるようにしてほしい。どこにもないような画期的な遊具を設置し、試合を観なくても遊びに来られるような場所になると良い。</li> </ul>
周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北山田駅からのアクセスについて障害のある方は苦労している。スロープを障害のある方も自力で上がれるようにするなど改善してほしい。</li> <li>・駅から国際プール、山田富士公園までのアクセスを改善してほしい。</li> </ul>

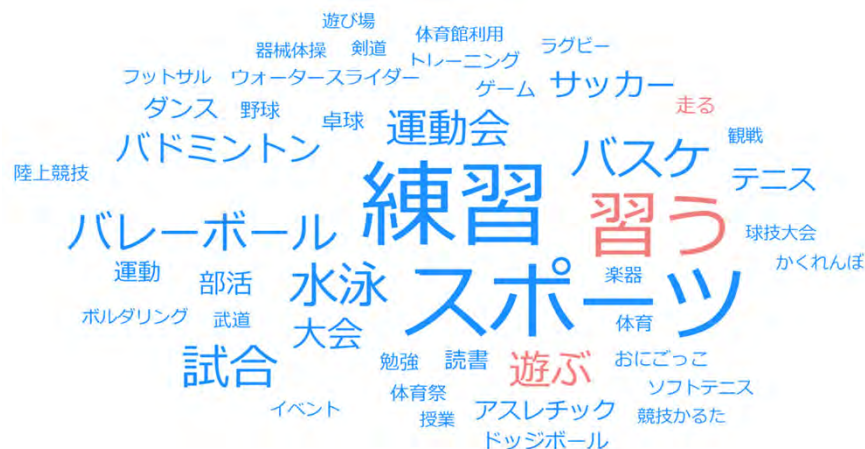


### 3 素案についていただいたご意見

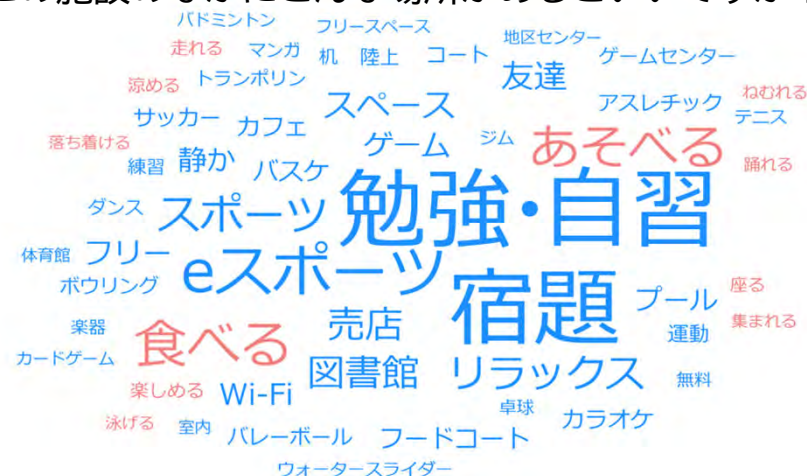
#### (4) 地域の子どもたちへのアンケート

○横浜国際プール周辺の近隣小学校3校・中学校1校へのアンケート調査を行いました。

問1この施設のなかでどんなことがしたいですか？



問2この施設のなかでどんな場所があるといいですか？



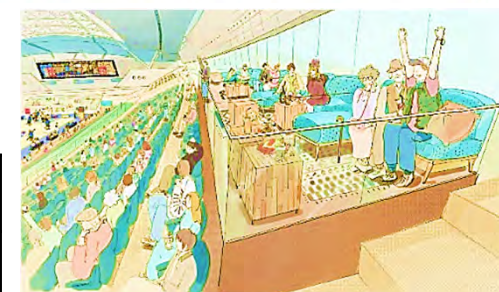
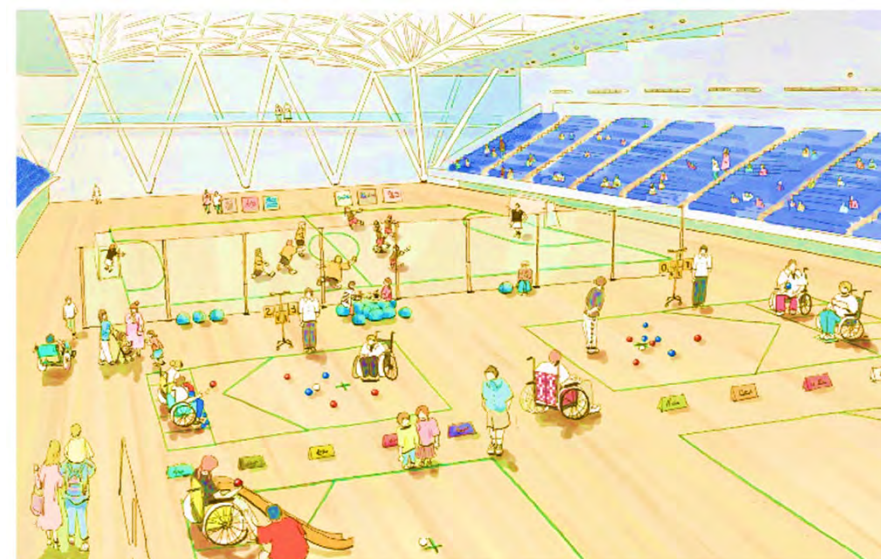
問1では、「練習」、「スポーツ」というキーワードの登場回数が多く、具体的なスポーツとして「バスケット」「バレーボール」「水泳」が多くみられました。問2では、「宿題」「勉強・自習」というキーワードが最も登場回数が多く、スポーツだけではなく、学習に取り組む場所を求める意見がみられました。

※各設問に対していただいたご意見の中にあるキーワードを抽出し、キーワードを件数に応じ文字の大きさで表現しました。16文字が大きいものほどご意見が多かったキーワードです。青字は名詞、赤字は動詞を表しています。

## 4 再整備の内容

### (1) メインアリーナの通年スポーツフロア化

- ・ 体育館の利用ニーズに対応するため、メインプールを廃止して通年スポーツフロアに改修し、障害の有無などに関わらず誰もが多様なスポーツを実施できる施設として、市民のスポーツの場を拡充します。
- ・ 年間を通じて、スポーツ大会の開催や小中高生の様々な催事に対応します。
- ・ 利用状況に応じて、室内の一部にエア遊具を設置するなど親子で楽しめる場を作ります。
- ・ 様々なスポーツ興行にも対応可能となるよう、現在最も要求水準の高いB. PREMIERクラブライセンス交付規則〔ホームアリーナ基準〕に沿って大型映像装置、空調・音響設備改修等のアリーナ機能の拡充とスイート・ラウンジやファミリー席等の整備を行います。



ファミリー席整備イメージ

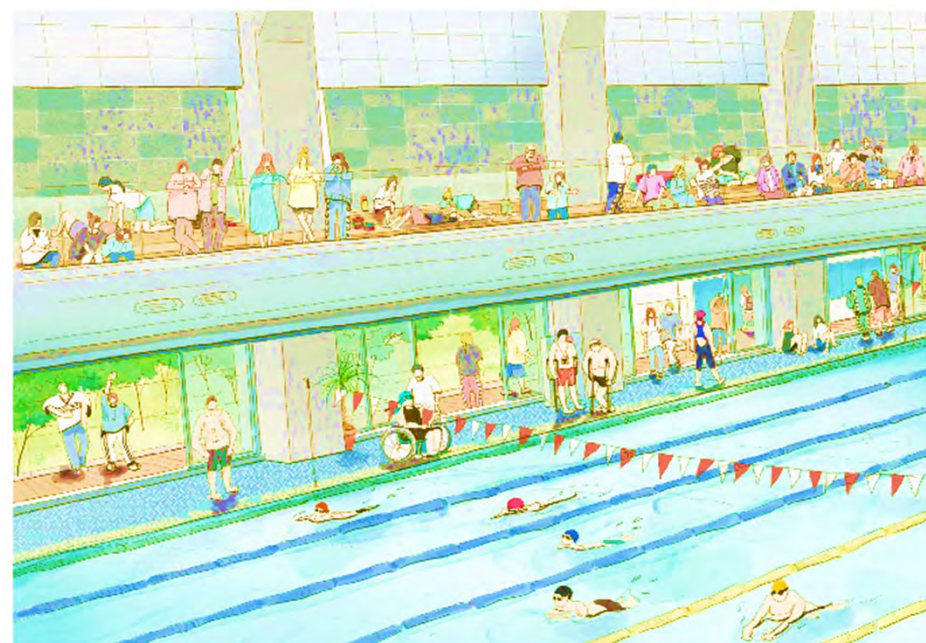
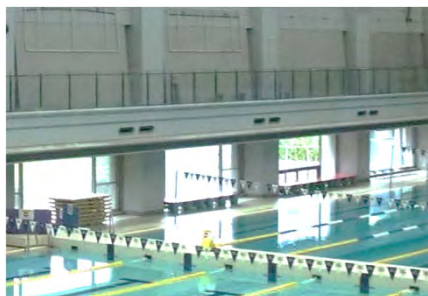
席数	約5,000席→6,000席以上（可動席を含む）
主な整備内容	大型映像装置更新・設置、空調設備更新、音響設備更新、スイート・ラウンジやファミリー席等整備、特定天井脱落対策

## 4 再整備の内容

### (2) サブプールの機能強化

- ・長水路（50m）を生かしながら、観客席の増設、映像装置、空調設備の改修等を行います。
- ・観客席を現状の355席から約2倍の700席程度まで増設します。
- ・エントランスからプールサイドまでのバリアフリー動線を確保し、だれでも更衣室、バリアフリースイレの設置などを行います。
- ・後述の練習用プールと併せ、公益財団法人日本水泳連盟の定める公認プール施設要領に記載の国内プールAを念頭に整備します。

席数	355席→700席程度
主な整備内容	映像装置更新、空調設備更新、バリアフリー動線の確保、だれでも更衣室、バリアフリースイレの設置



※国内プールAに必要な設備等の例

施設 : 50m 8レーン以上、レーン幅 2.00m～2.50m  
水深 1.35 m 以上

練習施設 : 50mプールまたは 25mプールを併設する

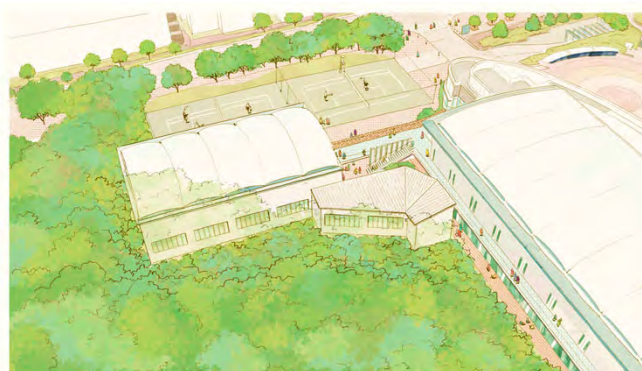
観客席 : 800 席以上とすることが望ましい

## 4 再整備の内容

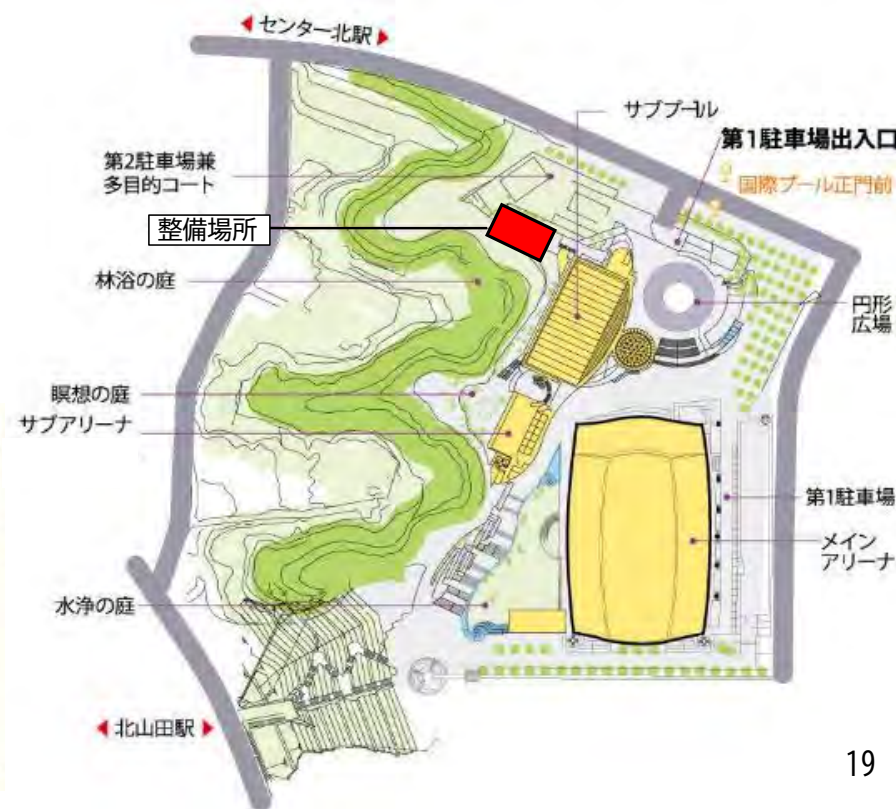
### (3) 練習用プールの整備

- ・だれでも更衣室、バリアフリースイレ、多目的スペース等の付帯設備を持つ、**インクルーシブな視点を踏まえた練習用プール**を整備します。
- ・サブプールでの大会開催時のウォーミングアップやクールダウン用のプールとしての利用や、**水泳教室での利用等**を想定しています。

仕様	25m×5レーン
付帯設備	だれでも更衣室、バリアフリースイレ、多目的スペース等



■練習用プール整備場所



## 4 再整備の内容

### (4) 子どもや親子が楽しめる空間の整備

- ・幅広い世代が自由に訪れ交流ができ、子どもたちが学習等もできるスペースとしてコミュニケーションスペースを設置します。
- ・スポーツマンガライブラリー等、休憩コーナーを改修して子どもたちがスポーツに親しめる場を作ります。
- ・敷地全体で、地域の皆様がいつでも立ち寄れ、また来たくなるスポーツと健康づくりの場となるよう、屋外遊具を設置し、質の高い、インクルーシブな遊び場を作ります。

■スポーツマンガライブラリー設置イメージ

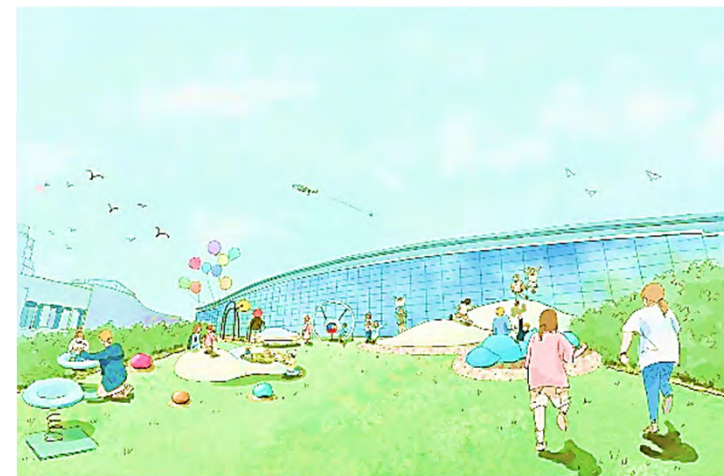


再整備前



再整備後イメージ

■屋外遊具設置イメージ



主な設備

書架スペース、閲覧スペース、ベビールーム（授乳室等）、コミュニケーションスペース、屋外遊具

## 4 再整備の内容

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER  
YOKOHAMA

### (5) 脱炭素・防災力向上

#### ・脱炭素化の推進

太陽光発電、高効率空調設備、照明のLED化等を導入し、持続可能な都市の実現を目指し、本市が進める脱炭素化を推進します。

#### ・地域防災力の向上

広い敷地を生かし、引き続き、大規模災害時に帰宅困難者を一時的に受け入れ、休憩場所のほか、可能な範囲でトイレ、水道水等や情報の提供を実施する「帰宅困難者一時滞在施設」として機能し、市民の皆様だけでなく、この街を訪れる方々が安心して過ごせるまちづくりを進めます。

あわせて、施設を地域の防災訓練等で活用し、日常的に防災意識向上と地域の連携強化を図れるよう、かまどベンチやソーラー街路灯等を設置します。



かまどベンチイメージ






ソーラー街路灯イメージ

## 4 再整備の内容

### (6) 人にやさしいアクセス環境の整備

北山田駅から横浜国際プールまでのアクセスルートのうち最短のルートには、**高低差が約17メートル（6階建て建物の屋上高さに相当）の階段**があり、バリアフリーが確保されていないため、車いす使用者やベビーカーではアクセスできないことが課題となっています。

バリアフリーの観点から3案（斜行モノレール、エレベーター、スロープ）の整備手法を検討した結果、コスト、輸送力、使いやすさ等の点から、**斜行モノレールを整備**します。

	斜行モノレール	エレベーター	スロープ
			
評価	エレベーターとほぼ同様の操作で運用可能。 <u>工期が短く施工範囲も最小限</u> となり、周辺への影響が少ない	使い慣れた移動手段で運用もスムーズ。建築と橋梁共に大規模な <u>工事が必要</u> となる	総長370mの傾斜路はバリアフリーの基準を満たしても利用上の課題がある
仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員：16名、エアコン完備</li> <li>・バリアフリー(車いす)対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員：11名、エアコン完備</li> <li>・バリアフリー(車いす)対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリー基準に適合する緩やかなスロープ</li> <li>・総長：約370m</li> </ul>

# 4 再整備の内容

## (7) 再整備による運営費等の削減効果

		床転換を継続 (現状維持)	通年プール化の 場合	通年スポーツ フロア化の場合	現状と通年スポーツ フロア化の場合の差
運営費		約6.0億円／年	約5.6億円／年	約5.7億円／年	▲約0.3億円／年
光熱水費		約3.0億円／年	約3.7億円／年	約2.4億円／年	▲約0.6億円／年
支出合計		約9.0億円／年	約9.3億円／年	約8.1億円／年	▲約0.9億円／年
利用料収入		約4.0億円／年	約4.1億円／年	約4.7億円／年	約0.7億円／年
横浜市 負担分	指定管 理料等	約5.0億円／年	約5.2億円／年	約3.4億円／年	▲約1.6億円／年
	保全費	約0.9億円／年	約0.9億円／年	約0.6億円／年	▲約0.3億円／年
	合計	約5.9億円／年	約6.1億円／年	約4.0億円／年	▲約1.9億円／年

※ 現時点での試算であり、今後、事業内容等の精査により変動します

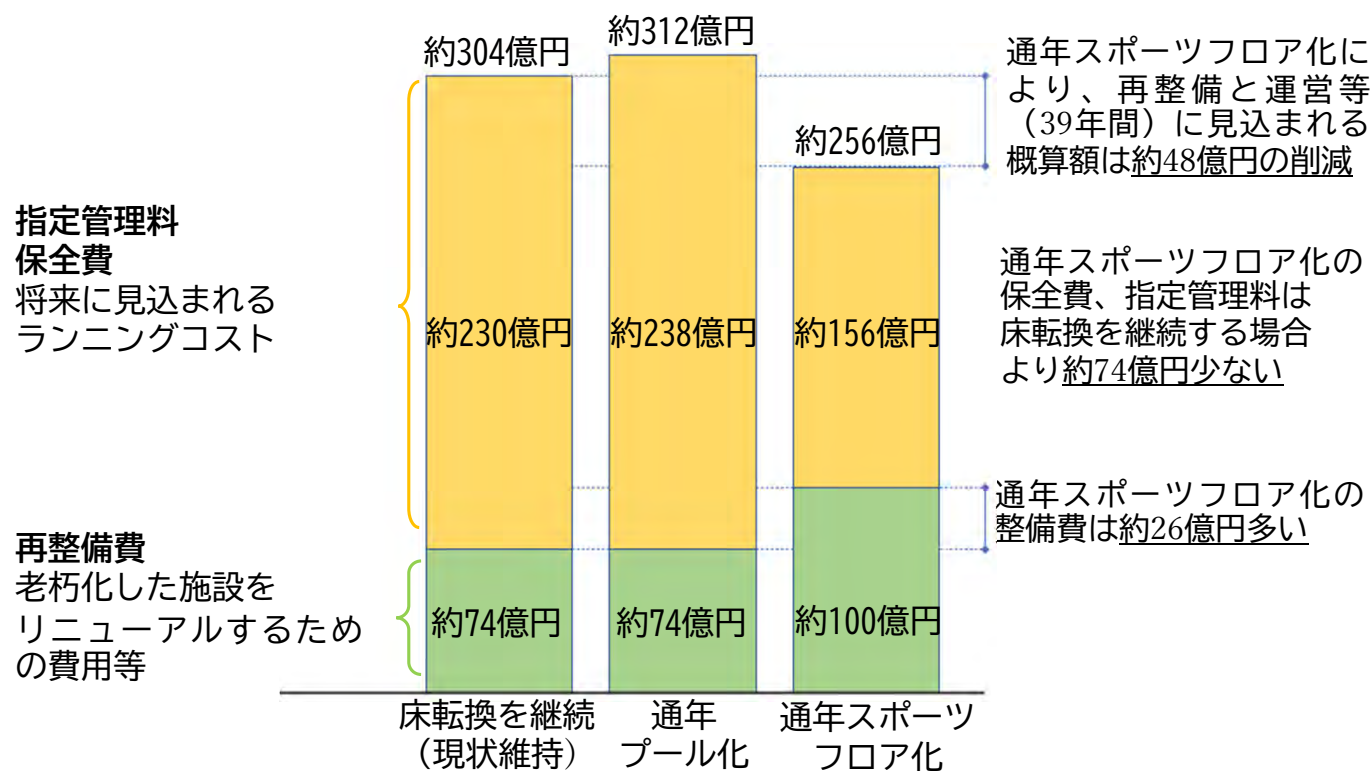
## 4 再整備の内容

### (8) 再整備と運営等に見込まれる概算額

通年スポーツフロア化する場合の再整備費用は、床転換を継続する場合の再整備費用よりも、**約26億円**多くかかる見込みです。一方で、通年スポーツフロア化する場合のランニングコストは、**床転換を継続する場合よりも、約74億円削減**できる見込みです。

そのため、**再整備と運営等（39年間）**に見込まれる概算額は**約48億円削減**できる見込みです。

【再整備と運営等（39年間※1）に見込まれる概算額※2】



※1 施設を70年間利用する場合の残りの耐用年数の想定

※2 現時点での試算であり、今後、事業内容等の精査により変動します

## 4 再整備の内容

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER  
YOKOHAMA

### (9) 地域の魅力向上



#### 1 まちの魅力向上

再整備にあわせて、周辺施設との連携策等、本施設が地域と一体となり、まちの魅力の向上に寄与するための取組を検討します。

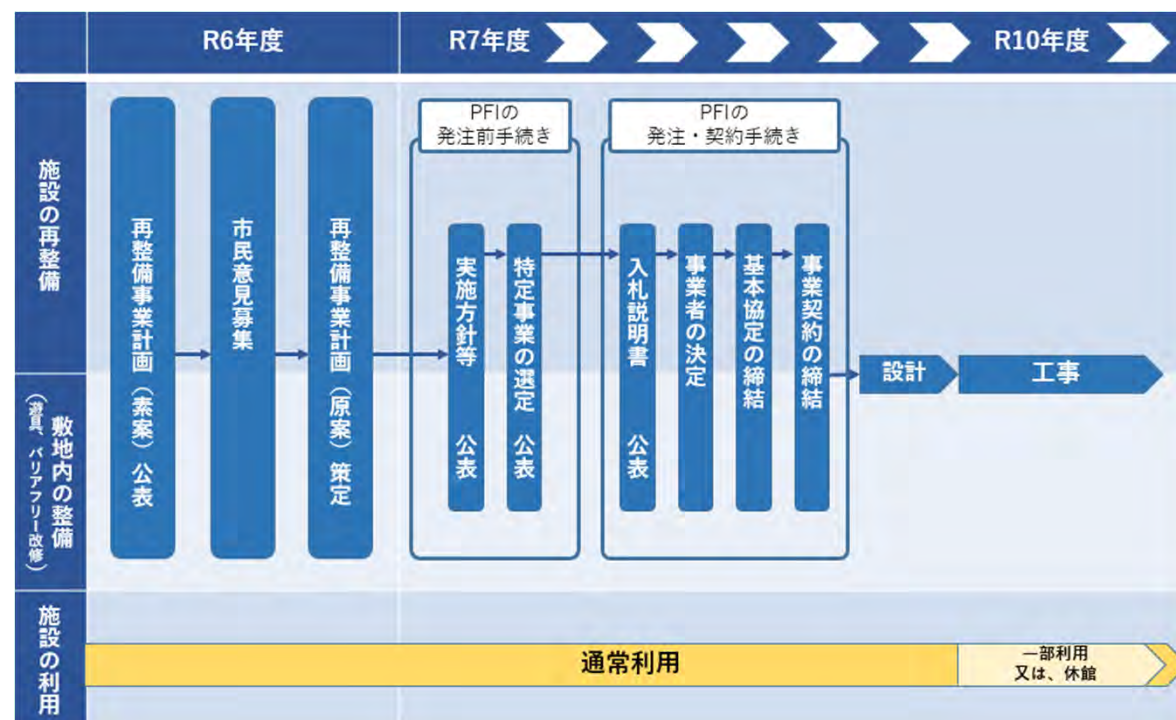
#### 2 ジョギングや自転車利用環境の整備

エリア全体でスポーツに親しみ、健康増進、まちの活性化につながる取組を検討します。

## 5 事業手法と今後の流れ

民間事業者との連携により、より効率的かつ効果的な施設整備や魅力的な施設運営が期待できること、また、市の財政支出の抑制、財政負担の平準化を図れることから、PFI方式を前提に検討を進めていきます。

スケジュールについては今後精査していきます。



## 6 施設の名称

再整備の方向性にあわせて、施設の名称についても今後検討を行っていきます。

## 7 グループ対話でお伺いしたい事項

### 【次世代を育む複合型スポーツアリーナの活用アイデア】

- リニューアルビジョンと4つの視点を踏まえた敷地・施設の活用アイデア
- 収益性を高めるためのアイデア
- 地域の魅力向上に向けた取組アイデア

### 【事業の実施に向けて】

- 事業スキーム・事業形態(サービス購入型、独立採算型など)
- 最適な事業期間
- 事業期間中に心配されるリスクと管理方法
- 事業実施条件の検討に際し、市で考慮が必要な事項